

(2) 東北



東北地域では、景気は東日本大震災の影響により、依然として厳しい状況にあるものの、総じてみれば緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

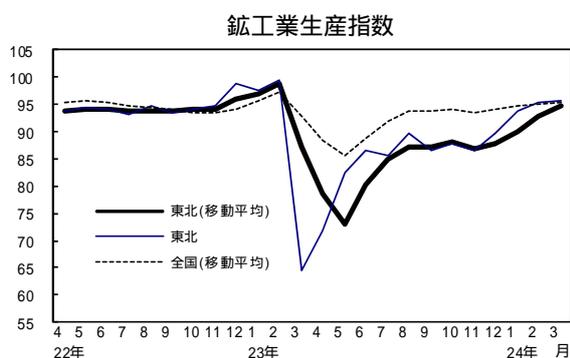
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年2月)	今回(平成24年5月)	
景況判断	持ち直し	<u>総じてみれば緩やかに回復しつつある</u>	
鉱工業生産	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	増加	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが堅調な動きとなっていることから増加している。食料品・たばこは、東日本大震災からビール等が順調に回復してきたことから増加している。一般機械は、海外企業の設備投資の動き等から受注が増えたことにより増加している。情報通信機械は、カーナビゲーションがタイの洪水の影響による部品調達難から回復したことにより大幅に増加している。化学工業は、食品包装等の需要が好調なことから増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	17.9	5.4	3.6	13.5	12.3
食料品・たばこ	11.8	8.6	9.1	9.1	3.3
一般機械	10.1	9.7	10.1	11.8	1.5
情報通信機械	9.6	6.2	23.1	10.7	51.4
化学	7.0	8.0	1.1	2.3	13.9
鉱工業	100.0	0.7	8.0	11.3	4.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

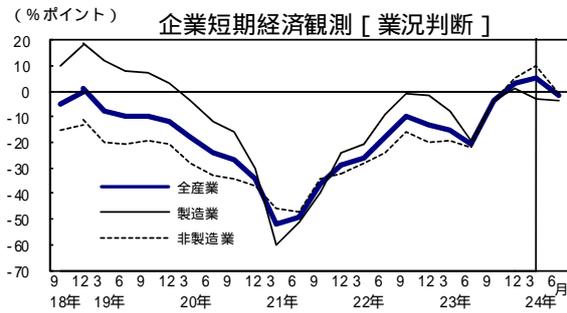
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

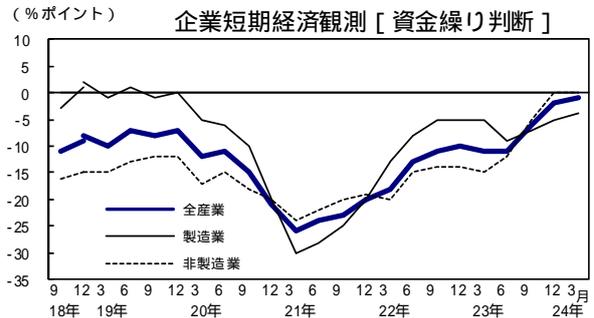
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

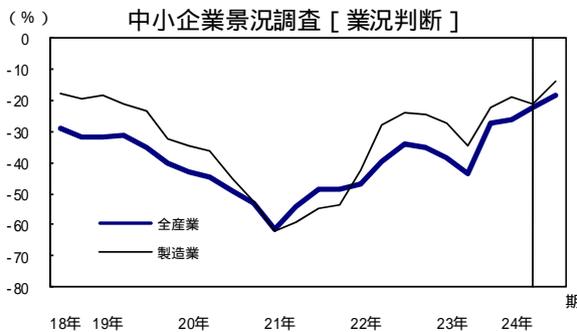
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

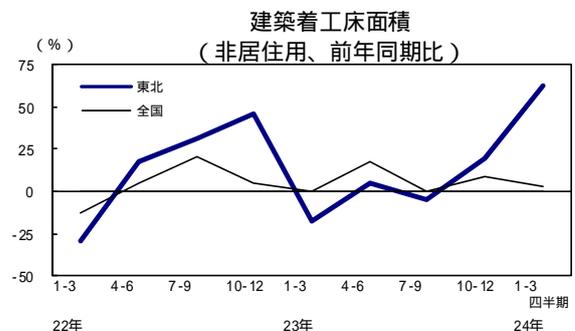
「4月に入り、受注量が激減している。民間企業は国の予算の執行度合の様子見をしているというのが現状である(コピーサービス業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度見込
全産業	0.3 (7.9)	18.6
製造業	0.9 (11.3)	21.7
非製造業	0.8 (0.9)	12.9

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

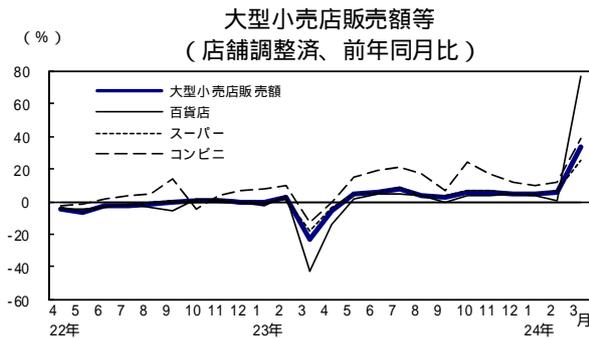
大型小売店販売額は、前年同期比で12.8%増、前期比で1.2%減となった。

百貨店は、1月が主力の衣料品の冬物が好調で、前年を上回った。2月は、春物は振るわなかったが冬物衣料が好調だったため、前年を上回った。3月は、前年の東日本大震災の影響による反動や、春物衣料が好調だったため前年を上回った。

スーパーは、前年の東日本大震災の影響による反動や、主力の飲食料品で生鮮食料品などが好調だったことから前年を上回った。

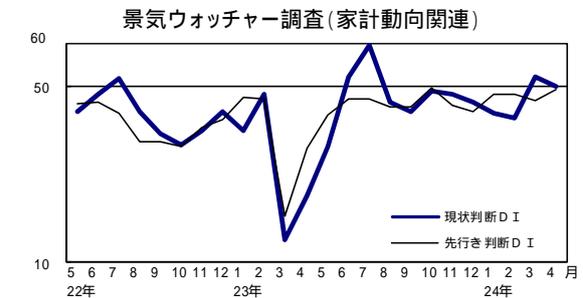
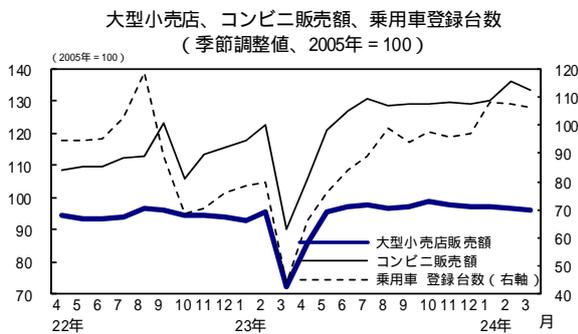
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「レストランは、大雪により客足が鈍化した3か月前に比べ、季節の変化とともに足元も良くなり、年配客を中心に客足が戻ってきている(都市型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期比(%)
 3. 店舗調整前、前期比(%)
 4. 乗用車は新規登録・届出台数

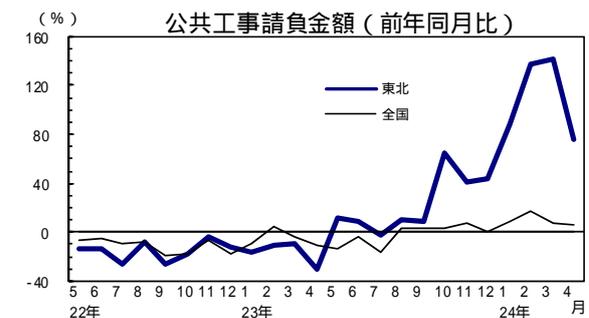
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

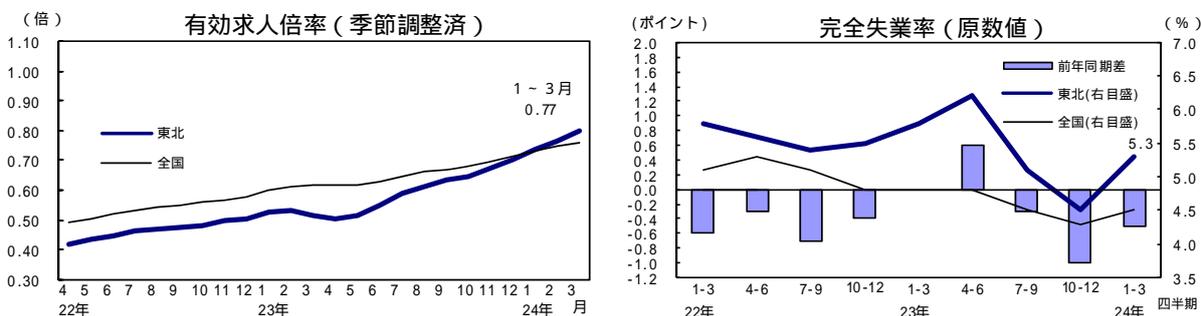
持家、貸家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は東日本大震災の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考)23年1-3月期から7-9月期の数値は補完推計値であり、23年1-3月期から7-9月期及び24年1-3月期の前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

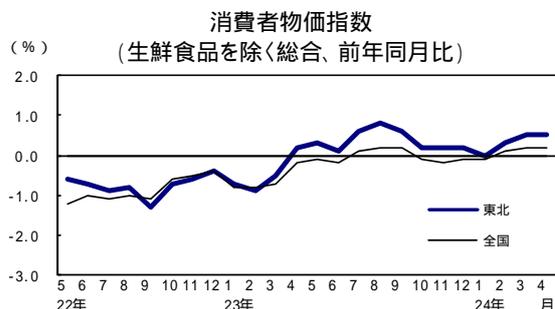
景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

「従来の建築業、飲食業の求人に加えて、物流やスーパー、小売の各企業の求人が増えている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
 (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数	156	160	121	125	47
(前年比)	13.3	11.6	37.6	20.4	17.5
負債総額	342	741	543	467	171
(前年比)	14.0	35.9	7.0	19.5	28.2



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・4月から地元を中心に大型観光キャンペーンが目白押しで、観光客の入込はもとより、地元の消費もやや上向いている(商店街)

<先行き>

- ・製造業の一部で円高に対応するための組織再編が行われ、下請会社との契約解除が行われたことにより、大量の失業者の発生が予想される(職業安定所)

景気ウォッチャー調査
 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

